

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400793		
法人名	有限会社 かがやき		
事業所名	グループホーム「かがやき」ホームⅠ		
所在地	愛知県名古屋市長区有松南415-1		
自己評価作成日	平成28年12月21日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyoSyocd=2371400793-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号
訪問調査日	平成29年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昼間の活動の充実、夜の快眠を保障します。「メリハリのある生活で「かがやき」のある生活を作りだす。」を合言葉にして、毎日の散歩、専門家の先生のご協力を得て、合唱・書道・詩吟などを行っています。ホームの主人公は、入居者の皆さん。職員は黒子に徹した日常生活を送っていただけるように努力しています。「ホームの主人公は、入居者の皆さん」を実践すべく、食事の準備から掃除・洗濯など入居者様お一人お一人の状況に合わせた取り組みを心がけています。ご家族(家族会)や、友の会はじめ、かかわって下さる外部の方とのつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームが1ユニット6人で構成されていることで、一人ひとりに寄り添った支援が行えることが、ホームの特徴でもある。職員間で日常的に意見交換を行いながら、一人ひとりがホームで望んでいる生活の実現に取り組んでいる。家族との関係についても、ホームからの働きかけを通じて良好な関係が築かれている。ホームには、家族会が組織されており、家族会が中心になって行う外出行事が行われており、家族との交流の場がとられている。地域の方とも、ホーム近隣にあるマンションの方とも良好な関係をつくっており、定期的開催している運営推進会議では、マンション1階の共有スペースを貸していただける協力が得られている。また、避難訓練についても職員間での連携を深める訓練や、家族や地域の方の理解を得ながらの訓練が行われており、実践に即した訓練が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や職員室に掲示しています。会議でも、理念にそった方針案や実践を確認し、理念の共有に努めています。	ホームで生活する一人ひとりが、ホーム名でもある、かがやいた生活ができることを目指した理念を掲げている。今年度より、利用者も参加した「かがやき会議」を通じた理念の実践につながる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎朝の散歩、毎月、かがやきニュースを近所の方に配布し、交流を図っています。また会議や行事では地域の集会所をお借りしています。災害時にはコミュニティセンターや近隣の空き地を使用させていただるように協力を得ています	近隣マンションの方の理解を得ながら、マンションの共有スペースを貸していただける関係がつけられている。また、保育園との交流が行われている他にも、様々なボランティアの方がホームを訪問しており、交流の機会につながっている。	地域の方とは、ホームからの働きかけを行いながら、関係づくりが行われている。ホームの現状への理解を深めてもらいながら、良好な関係が継続されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「かがやきニュース」を毎月、地域に入居者さんと一緒に配布をし、ホーム駐車場に掲示板を設置、ニュースの掲示しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練への参加やホームの状況をお伝えし、会議で出された意見をサービス向上に反映させています。	会議には、複数の地域の方や家族をはじめ、専門職の方の参加があり、様々な分野の方との意見交換が行われている。また、避難訓練の実施も行われており、ホームの現状を知ってもらう機会につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いきいきセンターに毎月、「かがやきニュース」を配付しています。いきいき支援センターの方には、避難訓練に参加して頂き、ご意見を頂いています。緑区介護事業所連絡会主催の介護フェアにも参加をしました。	ホーム便りを区役所や地域包括支援センター等に提供する取り組みを継続しており、意見交換等の機会につなげている。また、区内の介護事業所との連絡会に協力しており、福祉施策への協力にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関(9時～18時)には施錠をしていません。夜間は防犯上の都合により施錠をしています。研修報告や資料閲覧など、職員会議での討議も大切にしています。	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム内は開放的な雰囲気をつくっており、職員がさりげなく見守る取り組みが行われている。また、日常的にも意見交換を交わしながら、職員間で対応を意識する取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の方の身体に傷などがある時は、記録に残し、話し合い、予防を行なっています。また、研修への参加、職員会議でも取り上げ、自分たちの施設ではどのようなリスクがあるのかも考え、意識が高まるよう努めていますが、今後も研修等を通してさらに意識を高めていくよう努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいらっしゃいます。随時、関係者の方と相談し、行なっています。また、あいち福祉オンブズマンを利用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、重要事項説明書や契約書について説明をおこなっています。また、質問や疑問点などをいつでも、聞いていただけるに努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会への参加や、家族役員会、家族総会を開き、反映しています。また、日ごろより、ホーム訪問時や電話でお話が出るように努めています。ご意見に関しては、会議等を通じて、反映するように努めています。	家族の理解を得ながら、家族会の取り組みが継続されており、交流の機会につなげている。市民オンブズマンの方も対応できる体制をつくっており、相談、苦情等にも対応している。また、毎月のホーム便りには、個人別の便りが添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時、職員会議などで、職員の提案を聞き、運営に反映出来る様ように努めています。常勤職員間での情報交換ノートの利用、個別で懇談や作文を書いてもらうなどし、意見を聞く機会を作っています。	日常的に職員間での意見交換が行われており、管理者を通じて代表者に報告され、ホームの運営につながる取り組みが行われている。また、管理者による個別面談や個別の意見交換が行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの職員が、よりかがやき、働きやすい職場環境になるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じた研修計画を立てています。また、外部研修にも参加出来るように努めています。学ぶ機会を増やし、一人ひとりの力量や経験に応じて充実した研修に参加できるよう努めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他2GHさんとの年3回の勉強会を開催しています。勉強会には、職員も参加しています。そのうち年1回は、実践報告会を行っています。介護フェアを通じて、他GHとの交流の機会を持つことが出来ました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の状態把握をし、お話をしっかり聞く事を大切にしています。ご家族には報告や相談をしながら、安心して頂ける関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からお話を聞き、不安などの軽減を図っています。ホームからもご相談をし、ご家族のご意見も大切にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する際は、ご家族との話し合いを大切にしています。状況や希望によっては、体験入所も取り入れ、ご本人にとってよりよい方法になるように、話し合いをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の皆さんを人生の先輩として接しています。様々な場面で、皆さんが主体・主役となり教えて頂ける関係が作れるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方と連絡をこまめに行なっています。ホームから相談や報告をする事で、ご家族の方と一緒に支援出来るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方とのお手紙や電話での交流は行なっています。さらに把握をし、なじみの場所との関係が途切れないよう、今後も努めます。	入居前からの友人、知人との交流を継続しており、誕生日にプレゼントをもらったり、行きつけの美容院の方が迎えに来てくれる等、関係継続につながる取り組みが行われている。また、家族とも、市外の飲食店に出かけたり、法事等を通じた交流が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「お一人おひとりが大事な人」と感じていただき、日々の生活や行事などを共に行うことで、入居者の方々が関係を築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、関係性を大切にしています。友の会も発足し、退所されたご家族も入会、世話人をして頂き、行事にも参加をして下さっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からの会話を大切に、「入居者さんの声ノートに記入」、定期的に「かがやき会議」を行い、おひとりお一人の希望や意向に添えるよう努めています。	日常的に職員間で意見交換が行われており、利用者の状態等を見ながらカンファレンスの取り組みも行われている。また、ホームでは、利用者も参加する「かがやき会議」が行われており、一人ひとりが望む生活の実現に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や、ご家族よりお話を聞いています。また、ケアマネージャーさんや担当の方からも、お話を聞き、その方の事を理解出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人ひとりの体調や気持ちの変化を把握出来るようにしています。職員で情報を共有出来るよう、職員会議での討議や書類を使うなど努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いを大切に、職員会議で討議を行い、素案を作成しています。その後、家族懇談を行い、介護計画を作成しています。モニタリングは、職員会議でも討議し、月1回のモニタリングを行ない、担当者が記入しています。	介護計画の見直しは1年に1回であるが、日常的な意見交換や毎月の細かなモニタリングを実施することで、変化に合わせた介護計画の見直しも行われている。また、モニタリングには、担当職員にも関わってもらい、職員間の共有につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や、職員会議で実践についての確認、個別の確認ができるようにし、介護計画にいかせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて対応出来るようお話しし、可能な支援を提供するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緑区社会福祉協議会に加盟し、行事などにも参加しています。また、近所の美容院や電気屋さん、集会所などを利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所との連絡を大切にしています。往診日の前日には、診療所へ様子を伝えるようにしています。ご本人にとって必要な医療が受けられるように支援しています。	利用者に合わせた医療面の支援が行われており、協力医による訪問診療の他にも、ホーム職員による受診支援等の対応も行われている。また、協力医療機関の訪問看護が行われており、利用者の健康チェックと情報交換等が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告、相談をし、適切な受診、看護が出来るよう努めています。24時間、看護師さんと連絡が取りあえるよう連携をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、お見舞いや必要な際、医療機関と相談と情報交換を行っています。また、必要に応じて、カンファレンスやリハビリの確認をし、早期に退院が出来るよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診対応者には医師との面談にも同席をしています。ご本人・ご家族・医療機関と話し合い、職員間でも情報共有出来るよう努めています。また、日頃からご本人、ご家族の意向を聞けるよう、さらに努めていきます。	利用者のホームでの看取り支援が行われており、これまでに複数の方の支援を行っている。家族とも、身体状態等に合わせた話し合いが行われている。また、他のホームとの研修会の取り組みも行われており、職員の資質向上にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルや緊急時連絡網を作成しています。救急法の研修に定期的に参加できるように努めます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施しています。秋の避難訓練は、消防署のご指導を受けています。また、職員でも防災担当者を作り、より意識が高まるよう努めています。	年2回の避難訓練の際には、運営推進会議を通じた訓練の実施の他にも、地域の消防団の方との関係づくりも行われている。また、職員間で備蓄品の検討を行っており、非常時に必要な水や食料をはじめとする物品等の確保が行われている。	ホームでは、様々な方の理解と協力を得ながら訓練の実施を行っている。ホームの現状を知ってもらう機会をつくりながら、ホームの継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として丁寧な言葉づかいを大切にしています。排泄などの声かけにはプライバシーが守られるよう努めています。職員会議や職員間で言葉遣いについて議題にし、努めています。	ホームでは、5年毎にホームの方針案をつくっており、その中に利用者への尊厳を入れることで、職員間で振り返りにつなげている。また、職員間で意見交換を行いながら、気になった際には、注意喚起も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事への参加の有無や、献立会議やかがやき会議など、入居者の皆さんに決めて頂ける環境になるよう努めています。また、自己決定がしやすいような声かけを行なうよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員や業務の都合にならないように、入居者の方、一人ひとりのお気持ちや体調に合わせて過ごして頂けるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を一緒に選ぶなど、その方にあつたおしゃれが出来るように努めています。日々の中で、よりおしゃれが出来るよう努めます。また、整容のセットも用意しています。月間予定の中に、整容の日も作っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、職員と入居者の方が一緒に楽しみながら、行なっています。買い物や片付けも一緒に行っています。時間などの配慮が必要になっていますが、楽しい時間となるよう努めています。	メニューを利用者と「献立会議」で考えており、利用者の希望や好みにも配慮している。利用者も調理や片付け等の出来ることに参加している。身体状態等に合わせた食事形態の提供が行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、その方に合わせた量と形態にしています。飲食の希望にも応じるように努めています。チェック表に記入し、食事量の把握にも努めています。必要に応じて、医療者へ相談をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは個別で使いやすい物を用意しています。洗浄液を用意し、さらに清潔になるようにしています。1日3回の口腔ケアが出来るように努めています。課題となっています。必要時には、歯科受診が出来るよう対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の把握を行い、排泄の失敗があるときは、原因を探り、その方にあった誘導や声がけを行っています。日中はトイレ誘導を基本にしています。また、その方にあった衛生用品を使用する事で、ご本人の負担軽減を図っています。	職員間で排泄に関する記録用紙の見直しも行いながら、排泄に関する情報を共有し、一人ひとりに合わせた支援につなげている。訪問看護とも情報交換を行いながら、医療面での支援が行われている他、日常的な運動も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩やフラダンスなどの運動を行っています。朝のおやつには、ヨーグルトと果物を取り入れています。より快適な排便状況になるよう努めていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を行っています。入浴時間は決められていますが、その時間の中で、入居者の皆さんに合わせた入浴が出来るように努めています。季節によって、菖蒲やゆずも用意し、楽しみにつなげています。快適な時間になるよう努めたいと思います。	毎日の入浴の準備が行われており、利用者は実際に毎日入浴している。時間も、日中の活動後の夕方に行う取り組みが行われている。また、職員複数での介助を行っている他にも、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた、休息の時間、場所、声がけを行なっています。長時間同じ姿勢にならないように気をつけています。必要な方には、寝具の検討もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員に処方箋を回覧し確認をしています。薬のファイルも作成しています。薬を服用するまでには、担当職員のセットから、数回の確認が出来るようにし、間違いがないように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、洗濯たみや食事づくりなど役割を大切にしています。その方の好まれること、大切にされていることの把握をし、支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	かがやき会議や個別でのアセスメントにより、公園、喫茶店やスーパーだけでなく、海やぶどう園などへの希望された場所へも外出をしています。ご家族とは、お墓参りや外食へ出かけられています。ひとり一人の希望に添えるよう今後も努めます。	その日の状況等を見ながら外出の時間をつくっており、日常的に外出するよう取り組んでいる。季節に合わせた花見や公園等への外出行事も行われている。また、家族会が中心となっている外出行事も行われており、家族との外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理をしている方やお財布を預かっている方など、その方に合わせた支援をしていますが、ご自身のお金を使われる方は少なくなっています。所持、使うことが出来るよう今後も検討したいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族や友人の方と電話やお手紙で交流を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の皆さんが手作りの物を飾っています。浴室やトイレには、分かりやすく張り紙をしています。朝、カーテンを開け、光を感じてもらい、草木も見えるようにしています。空調の管理を行うなど、過ごしやすい環境になるように努めています。	ホームは木のぬくもりを大切にしながら、壁や床も落ち着いた色彩であるため、日中の時間を落ち着いて過ごすことができる環境である。また、リビングや通路には利用者の作品が掲示されたり、ホームでの様子が写真で飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置を状況に応じて変更していますが、ひとりで座ることの出来るリクライニングチェアも用意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベット、寝具、家具などを持ち込んでいただいています。ご本人が居心地のよい空間になるようにご本人やご家族と相談しています。	居室は和風の空間となっており、利用者にとっては、入居前の自宅と似たような環境でもある。また、利用者、家族の意向にも合わせながら、様々な家具類の持ち込みが行われている他にも、趣味の物等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく、また動きやすくなるように工夫し、必要な場所には手すりやシール、ご本人のものと分かるよう工夫をしています。困られないよう、また力が発揮できるよう努めています。		